

小松島市政の令和3

昨年度に引き続きコロナ禍が続いた今年度は、市制施行70周年を迎え、そこで本コーナーでは、様々な事業が行われた今年度の市政を振り返ります。

子どもを育てやすいまちを目指して 出産・子育て支援

令和3年4月、小松島版ネウボラとして、母子健康包括支援センター「おひさま」を新たに開設しました。「おひさま」では助産師・保健師が妊娠中から子育て中の方の健康や子育てに関する相談に対応、子どもの発達段階に応じたきめ細やかな支援体制を構築しています。

オンラインを活用したサービスを展開

令和2年度より開始したウェブ会議システム「Zoom」を使用したオンライン妊産婦・赤ちゃん健康相談事業を引き続き実施。自宅から相談することができるため、感染症対策にもつながる事業となっています。

また、令和3年6月から子育てアプリ「おひさま」の運用を開始。妊娠中の健康データや出産・子育ての記録の管理などがスマートフォンやパソコン等で行えるようになりました。



母子健康包括支援センター「おひさま」助産師による赤ちゃんのケア

行政改革

契約により市有の施設等に企業名やブランド名、商品名などを冠したネーミング・ライセンス制度を新たに導入し、愛称をつけていただくパートナー企業を募集しました。その結果、令和3年4月にミリカホール、6月に南小松島駅前ひろばにそれぞれ、「サウンドハウスホール」、「イツモスマイル駅前ひろば」という愛称が決定しました。



サウンドハウスホール



イツモスマイル駅前ひろば

情報発信

市内外への発信力強化にむけて

令和3年4月から、市内で放送を行うケーブルテレビ会社を通じてケーブルテレビでの行政情報の発信を始めました。広報誌、SNSなどの各種媒体と組み合わせることで、幅広い情報発信に努めます。

SNSでは、令和2年度にアカウントを開設したTwitter、Instagram、YouTubeなどを活用した情報発信を引き続き展開。イベントにおけるYouTubeでのライブ配信や、Twitterで特定のハッシュタグをつけた投稿をしていただくことでユーザーからの意見や感想を募集する企画を実施しました。SNSを活用することで、今まで小松島のことを知らなかった全国のユーザーの方々にも情報を届けられることから、双方向の情報発信が可能な特性を活かし、今後様々な企画を進めます。

学校再編計画

市内小学校の再編については、令和3年7月30日、小松島市立学校再編実施計画(案)を策定。計画は令和15年度までに、現在の11校を段階的に5校に再編するという内容で、「未来を担う人を育てる教育」の実現を目指すものです。

策定された計画(案)をもとに、令和3年10月から11月にかけて市内各地で住民説明会を実施し、計画への理解を求めました。

その後、計画(案)に対し、皆様からいただいた意見を参考によりよい計画となるように修正を行い、令和4年2月21日に計画を決定しました。

今後は同計画に基づき、教育環境整備を進めます。



学校再編に係る住民説明会

小松島市が未来へ輝けるまちとなるよう、来年度も引き続き頑張っています。

小松島市長 中山俊雄